

原子力規制検査（核物質防護） の導入に係る検討について

令和元年10月2日

原子力規制庁 放射線防護G 核セキュリティ部門

説明事項

1. 検討経緯
2. 現在の準備状況
3. 今後の予定

1. 検討経緯

核物質防護に係る新検査制度の検討については、核物質防護に関する機微情報が含まれているとして米国NRCのセキュリティに関するガイドのほとんどが非公開となっている状況を踏まえ、以下のとおり、米国NRCに対する訪問調査を実施するとともに、非公開の場で事業者との意見交換を行いながら検討を進めてきた。

- 米国NRC訪問調査
 - ・ 2017年10月
サイバーセキュリティに関する検査ガイドについて調査。
 - ・ 2019年6月
2018年10月に公開されたベースラインセキュリティSDPガイドについて調査。
- 事業者との意見交換
 - 適宜面談により事業者と意見交換を行うとともに、以下の事業者連絡会において意見交換を実施。
 - 2019年3月事業者連絡会
 - 2019年8月事業者連絡会
 - 2019年9月事業者連絡会

2. 現在の準備状況（1）

1. 検査回数、日数の検討

検査回数・日数

⇒毎年、防護措置の内容に応じて数日間、数回実施。

2. P I (Performance Indicator) の検討

- (1) 安全実績指標は、米国NRCのセキュリティP Iと同じ、設置された監視装置の使用不能時間割合
- (2) 対象は、立入制限区域及び周辺防護区域に監視装置を有する事業所
- (3) 報告時期は、四半期毎
- (4) 評価期間は、過去4四半期（1年）

2. 現在の準備状況（2）

3. 検査ガイド等の作成

- （1）検査ガイドの試運用版については、NRCの検査ガイド（IP71130シリーズ）を参考に作成済み。
- （2）核物質防護のSDPガイドについては、NRCのベースラインセキュリティSDPガイドを参考に、防護措置の内容に応じて、発電炉・再処理・貯蔵・加工（区分Ⅰ）施設用、試験研究炉・使用施設用、区分Ⅲ施設用の3つの試運用版を作成済み。

4. 試運用の実施

フェーズAとして、2019年6月～9月にかけて柏崎刈羽原子力発電所及び大飯発電所において、検査ガイド、スクリーニングガイド、SDPガイドの試運用版を用いて実施。

3. 今後の予定

- ・ フェーズBとして、2019年10月から全施設において試運用を実施。
- ・ 試運用の結果を踏まえて、検査ガイド等を修正。
- ・ 事業者連絡会を適宜開催し、検査ガイド等の修正について意見交換を行うとともに、事業者の準備状況を把握する。